（刊日）　明治四十一年十月三十一日　京城新聞　（土曜日）　第百號　（一）

京城新聞

●滿洲の日露連絡

滿鐵役員 岡本博士談

△日露線路の連絡

日露線路の連絡に就ては屡ば新聞に出て居りますが、實は露西亞と吾々の會社のみならず內地との連絡の下相談が出來て十一月頃には其相談に取り掛ると思ひます、現在は我國で露亞西と接續する線路は門司で經て大連に往つて汽車に乘つて哈爾賓に出て向ふの線に接續するのと敦賀に出て浦鹽を經由して露都に往くのとの、二線路が御座いますが、直行は二國で他の一國は莫斯科で乘換へる、こう云ふ急行車が今はありません、此二つを活かして使はふと云ふので、殊に吾々の會社は汽車の連絡がございますから之を連絡して一つの切符で露西亞からズツト日本に來られるやうに、大連の經由が一つ露西亞から出れば日本へ敦賀を經由して來られると云ふ二線を仲好く聯絡しやうと云ふ考を日本も持ち、露西亞も持つて其下準備に掛つて居ります是が出來上りますと一つの切符に依つて貨物を直接に送ることが出來ます、旅客も乘換は免かれませぬが切符を買ひ換へる不便がなく交通が便利になります、殊に露西亞人も日本並に南滿北滿に對して自分の商品を出したいと云ふ希望がございまして、吾々が哈爾賓で下相談をした時にも向ふから出るものと此方から往くものと特別に運賃の約束をしやうと云ふので、約二十品も相談をしやうと云ふことを言つて來ました、段々向ふからさう云ふものが來まして連絡が付きました曉には、滿鐵としては無論露西亞からでも又日本からでも是非大連を御通り下さることを希望しますが、さうして日本の露西亞との貿易を益々盛にするやうに御盡力下さることを希望します。（終）

讀者文壇

述懷

あきつの舍主人

數ならぬ、身にはあれども、大丈夫か、男子たる身の、家のため、世のためなどか、いきをしき、たてさらめやと、ちゝの實の、父の命や、柞葉の、母の命のみもとにも、仕奉らず、はしきやし兄弟ともに、雲井なす、遠き境を、へたてつゝ、國の內外ぞ、立別れ、身もたなしらず、つくしてし、清き心も、むら雲の、たへずかゝれる月の如さやけくてらす、よしをなみ、黑白もわかぬ、よのさまを、慨きこそすれ、烏羽玉の夜はたる月も、盈虛は、ありけるものを、春每に、ちりゆく花も、又さかむ、年はありけれ、秋されは、時雨にそむる、紅葉の赤き心を、賞てられて、散りても名をは、龍田川、錦となりて、流るゝを、身はうき雲の、わたにかく、月日すさは、眞木柱太き心は、劍太刀、いつかとくへき、立しむは

反歌

よしや身は、人こそ人といはさらめ、こゝろのかぎり、つくさゝらめや、

（五十三）

河合柳葉

「ねヽッ、宇治の松右衛門所から人が來たシテ其人は奈何した。」

云ふは淸川嘉猷である。

「彼方の室で貴方のお歸りを待受けて居ります。」

「甚麼用向の樣子だ」

「まだ何にも承はらないのでございますが松右衛門から書面を齎來したを受取て置きました。」

云ひヽ時子は、彼の町田が持參した書面を披て淸川に渡した。

嘉猷は其書面を洩れなく讀終つて、又元の如く卷いて封筒に納め、そして町田の待受けつゝある室に入つた。

「君が町田君かね、定めて待疲れたであらう、私が淸川ぢや。」

磊落さうな中に、浸すべからざる威嚴を備へた淸川の風采を仰いだ町田は、何者にか打たれた如く心底から敬服の念を起して、

「これは旦那樣でございますか、御不在中に伺ひまして失禮致しましてございます、私は町田長次郞と申しまして、山城伏見のものでございますが、宇治の川口松右衛門から書面を貰ひまして、遙々旦那樣を便つて上京致しましてございます、委細は與機に差上げて置きました書面を御覽下されば明瞭致しまするが、どうか御厄介ではございませうけれど、何分宜しく御願ひ申しまする。」

「今書面は一通讀むで見たが、文中に一度死んだ生命を蘇生したのだから、死ぬだけの辛ひ事も厭はず辛抱する本人の覺悟だと書て、吾余は本人に聞取れとあるが、この一度死んだと云ふは、奈何して死んだのかな、隨分放蕩に身を持崩したとは書いてあるが、豈夫放蕩の結果生命を棄てにかゝつたのぢやあるまい。」

將に名判官の被告人を訊問する態度、町田は腋下に汗を流しつゝ、

「お愧しい次第でございますが、眞個放蕩の結果一命を棄てましたのでございます。」

「遊放の結果棄た、ふむシテ見ると隨分墮落したものと見ゆるな、何にすれほど身を持ち崩したのだ……シテ……又松右衛門がお前さんの生命を助けたさあるが、此の間の消息が薩張事情が分らん、一体奈何したのだ。」

「御不審は御有理でございます、實は斯樣な仔細でございます、手前の宅は憚ら申すと何でございますが、伏見の町では一番古くから營業して居ります吳服店でございまして、父はモウ老年でございますゆゑ、店の仕入万端總て私がやつて居りましたので今年の春でございました、神戸の舶來反物の問屋に參りまして其歸るさに、同じ汽車に乘合せた女がございました、些と見ますると、何れこそ華族樣の御姬樣かとも思ふ程美しくもあれば、身裝も立派でございましたが、偶然のおまり何方からと云ふでもなく言葉を交しましたのが始りで、到頭妙な關係になりました、所が奈何も非常な書意の深い女でございまして、私も行々は父にも明して妻に致さうとまで思つて居りましたゆゑ、女の言ふがまゝに父へは內々金子も餘程浪費しました、其內に父が聞き出しまして、非常な立腹で殆んど勘當同樣な身の上になりましてございます。」

と云つて、ハンケチに腋下の汗を密と拭いた

廣告

待合　嬉野

永樂町一丁目

本町五丁目より入る

從來營業仕居候上隣に移轉致し閑靜なる間數も多數有し上席料其他總てに於て勉强仕候に付永當く御來遊の程奉願上候

菊花壇

昨年愛菊家露氏の好評を博したる菊花の上新種類數十種を輸入し今を全盛に咲き亂れ本日より縱覽に供し候に付御婦人方御同道御觀覽被下度

菊一本の價百圓

右は天下一品の名花山梨縣甲府に發芽したるもの東京某伯爵家に於て買求め御秘藏中の者なるも夥樣申受け培養したるに驚くべき天下の逸品にして御一見の價値確かに有之候者と相信候

御注文に依り御一人前二十錢の茶御菓差出候

御參考御料は御一人前金一圓五十錢にて山海の珍味を供し候

京城新町　皆春樓

●土耳古煙草直輸入大販賣●

本社ハトルコ最大黃製造會社ニシテ其製品ハ原料精選其風味ハ良好無比ナレバ夙ニ世界各國ニ最多ノ輸出ヲナシ好評ヲ以テ迎ヘラレツヽアリ卸小賣トモ廉價ニ販賣仕候

京城本町四丁目　角　デーエス、パチリス會社出張所

仁川港本町通　仁川代理店　穎原兄弟商會

日丸魚市場

秋冷の候各位益御淸適奉賀候　陳者弊場開設以來遠近の嫌なく御用命を蒙り從來の市場にては狹隘を告ぐる程の盛況を呈するに至り候段深く奉感謝候從つて今般東部方面御在住者の御便利を圖るが爲め名稱をヒノマルと稱へ（本月廿七日より）本町六丁目一番戶に小賣部を開設し壽町大和町本町七、八丁目附近の顧客が嚴寒の際遠く南大門迄御運び相成る御不便を除き魚類は勿論牛鷄肉野菜其他を販賣仕る樣設備を加へ候條弊場同樣御引立の程希上候也

明治四十一年十月

南大門通二丁目　香椎魚類販賣部　日丸魚市場（電話百〇八番）

本町六丁目一番戶　日丸魚類小賣部　ヒノマル

廣告

來十一月三日天長の佳節に付ては例年の通り居留民一般祝意を表する爲同日午後五時より日本人倶樂部に於て祝賀會相催度候間御賛成相成度此段廣告候也

追て御賛成の諸君は會費金　圓を添へ京城居留民團役所に御申込被下度候

明治四十一年十月二十七日

（いろは順）市川盛宏　和田常市　中村再造　熊谷頼太郎

高等御下宿

京城明治町一丁目　辻家　荒川繁尾

煙突掃除　ストーフ据付請負

電話三一四番　衛生社

西洋御料理

京城五十八銀行横通　寶亭

たまや玉張

▲無料紹介欄▼

人事部

●■新聞社の校正係又は活版事業に經驗ある者五元刑事且つ活版事業に經驗ある者　姓名在社（五六）

●求婚　本年二十八月收八十圓血正体健十八九の良家の淑女と結婚したし　氏名在社（六七）

●弟子入用　但し十四五歲のもの　氏名在社（六八）

●求婚　年廿六血統正保累無月收五十圓容姿不問廿歲前後体健血正の女子と結婚したし　氏名在社（七〇）

京城又は附近にて豆粕の製造所又は販賣所あらば御知らせを乞ふ　氏名在社（七一）

●被雇度　朝九時より午後三時迄の間雇はれたし給金不望年十九保證人あり　氏名在社（七二）

夜間自宅にて錄耕に從事す御依賴の方あらば御申越し次第參堂の上委細承致すべし　姓名在社（七四）

仲居入用　年齡十七年より廿五六年者至急一名入用但料理店に心得の有る者なれば尙宜し　大和町一江戶善（七九）

熊本縣人市下確氏の消息を知りたし　ヱヌ生（七七）

●年齡廿五歲（妻帶者）會社銀行等の小使に雇はれたし　姓名在社（八〇）

●十四五才の小僧入用　但身元引受人を要す　氏名在社（八三）

淸語　夜間七時より九時迄教授す　南大門通商業會議所樓上　淸語研究會（八五）

蓄音器至急讓渡たし　姓名在社（八六）

小供入用　但十八以下　氏名在社（八七）

●雇れ度　年廿五歲にして普通教育あり体格極めて壯健何篇にても宜し至急雇はれたし　氏名在社（八八）

物件部

●從來開業中の確實なる醫院の不用品に付藥器械藥品及び患者付の儘にて至急讓渡したし　姓名在社（四七）

●貸間　本欄入事部に御容申すオンドル一間疊貳枚飾り庭園尤雅にして閑靜詳細は御來談を乞ふ永樂町佛國敎會裏山田（六三）

古着道具買たし本町七丁目一六號寶（六四）

●賣地　旭町一丁目の山の手にて風景絕佳の土地家屋附にて讓りたし御望みの御方は御來談を乞ふ　姓名在社（七〇）

一本町より明治町に入三軒目空地三十坪斗附の貸家あり　櫻井時計店（七八）

裁縫、刺繡、編物、造花、機織工、英語教授す和服仕立物御注文に應ず　大和町三丁目廿六番坏　古谷（八一）

貸地　龍山十五間道路南大門外四千坪割貸　本町四ケ斯祥物店電三二一番（八二）

●至極便利なる方法にて貸金の周旋に應ず但照會封書　黃金町敎明館內渡邊（八四）

●至借家　六疊四疊半各一溫突一間若御込炊事場付の家を借りたし　氏名在社（八九）

空地七十坪ヲンドル九間格安賣渡したし　氏名在社（九〇）

(二) （明治三十八年…郵便物認可） 明治四十一年十月卅一日（土曜日） 京城新報 第百號

日英米の同盟

（京城新聞）

米國回航艦隊の帝國を訪問せらるゝや朝野擧て熱誠なる歡迎をなし深厚なる友愛の情を表したるに忽ち米國民に反響し其好感情は日英米三國同盟說を生ずるに至れり、之れ素より一時感情の昂上したる表現に過ぎずと雖も列國の形勢より觀察すれば早晩此說は起り來るべきものなり、殊に亞細亞の平和を保障する點より日英米の三國同盟は必須の事たるなし、假令表面上同盟規約を締結せざるも三國共同の步調を採らざる可らず、英國の印度統治に於ける米國の比律賓統治に於て帝國の南滿及韓國經營に於て何れも平和の間に之をなさゞる可らず、清國の保全及文明の誘導に就ては三國共に其希望を同ふし其間些少の軒輊だになし、日英米三國にして同一の政策を取りて渝らざれば東洋の平和は永遠に保障せらるべし、帝國の滿韓經營は自衞に必要なると共に極東平和の保障たることは今更言說を要せず、而して更に帝國の望む所は東洋文明の宣傳者たる光榮を荷ふと共に人類幸福の增進に努力せん事なり、此點に就ては英國も米國も同一の希望を有する事は素より論を俟たず米國の人道を重ずる清國の保全を主張し滿州開放を唱導せらるゝも清國民をして文明の恩澤に浴せしめんとするに外ならず、帝國が露國と戰ひて露國の勢力を挫き滿州の開放を實行したるも此主意に外ならず、帝國が滿州の經營に力を注ぐは自衞の爲なりと雖も極東の平和を保證し以て文明を宣傳せんが爲なり、斯の如く日米は極東に於て同一の希望を有するを以て兩國の同盟は自然の勢なり、日米相提携して清國の開發に力を盡すは最も相互の利益なり、殊に帝國は清國とは密接の關係ありて極東の平和を保つ上より南滿州及韓半島は極力經營せざる可らず、之を遂行するに於て其目的を同ふする米國と提携する事は最も必要なり事情の疏通せざる爲に疑心暗鬼を生ずるが如き場合なきに非ず、互に誠意を以て茲に提携をなさば帝國の眞意も能く諒解せられ圓滿なる經營を進むる事を得べし、不幸にして日露戰後帝國の誠意は米國民の一部に誤解せられ面白からざる現象を見たりと雖も回航艦隊の訪問に依りて將さに帝國の誠意分明となり茲に一部の惡感情は拂拭せられたると共に全く舊時の親交を回復せり、疑なく日英米三國同盟の米國民によりて唱道せらるゝに至れるは與に東洋平和の爲に賀すべきなり、元來日米の關係は今更叙說するの要なく其親善なるは無論何等利害の衝突する所なければ永遠無窮に友邦として親交を續くるに些少の障りなし、清國の開發に於て帝國は英米と共に其天職を盡すを以て愉快とし且つ光榮とする所なり、

（厦門電報）

▲米艦厦門寄港

米國艦隊歡迎附近嚴重にして人民の通行を禁示し唯官吏のみ通行す

▲不穩の風說

米國艦隊はアモイの歡迎を受けたる後ち臺灣を砲擊すとの風說盛なり（以上卅日午後發）

（東京電報）

▲討伐隊の敍勳

韓國暴徒討伐隊に對する敍勳は海軍省の異議ありて今尙決定に至らず四十二年三月中に全部の交付を終るは困難ならん

▲間島問題の一段落

間島問題は大体に於て清國の所屬と決定したれども礦山の[illegible]山採掘中止損害の要求等は別問題なるを以て日清兩國政府より特別委員を設けて談判せしむべしと

▲韓太子の參內

韓國皇太子は伊藤統監と御同乘にて韓國軍部大臣李秉武を隨へ參內天皇陛下より銀製置計盤を賜らせられ夫れより皇后陛下に謁見の後東宮殿下を訪はせられたり皇后陛下よりは銀製花瓶の御贈進ありたり（以上二十九日發）

▲議會の召集

議會召集は十二月中旬と內定す（卅日午後發）

（各地電報）

▲財務署長會議開催

昨日より咸鏡南道各部聯合地方委員會議に財務署長會議を此地に開催し若松理事官を始め日韓各官憲臨席して訓示演說あり盛況を極む（二十九日元山發）

（雜報）

●天長節奉祝次第

曾禰副統監以下內外諸官吏は午前十時より十一時迄祝賀の爲め統監官邸に參集の事又曾禰副統監は統監代理として統監府及各所屬官署の判任官及判任官總代の祝賀を受くる由

●天長節園遊會

三日午後六時三十分より統監邸綠泉亭及好蓮園にて園遊會を開かる其順序左の如し 一模擬店開始午後二時卅分、一立食開始午後三時三十分爆竹合圖とす、一來賓は統監邸正門より入る退出は舊軍司令部正門よりす、一來賓は立食終り隨意退出のこと

●鍋島氏辭職

統監府外務部長鍋島桂二郞氏は昨年來辭表呈出中なりしが近々愈聽許せられ外務省に立戾ることゝなりたる由なり、而して鍋島氏の後任者は小松書記官なるべしとの事也

●若林警視總監の參內

若林警視總監は明一日參內し韓皇及皇后に謁見新任の挨拶をなす筈なり

●佐藤博士の出發

大韓醫院長醫學博士佐藤進氏は既記の如く昨日午前八時三十分南大門發の列車にて歸朝の途に就かれたり曾禰副統監、村田、本田、明石三少將李首相及び各大臣各部次官其他日韓各官吏六十餘名同停車場に見送れり

●松平理事の訪問

赤十字社理事松平子爵は廿九日夜着城昨日午後一時曾禰副統監を訪問せり

●學部大臣の歸朝

地方視察中なる李學部大臣は昨日黃州に入り本日は同地に滯在明一日開城に向ひ二日間滯在歸京する筈なりと

●地方費規則に就て

地方の公共事業經費に充つるため地方費を徵收する事に關する規則發布の件は前回の參與官會議に於て其の大體を審議したる由なるが右は地方人民に新たなる稅金を賦課するものに非ずして從來各地方に於て徵收せし雜稅の中より適當と認むるものを地方費として徵收するものにて從て其の稅目及び稅率の如き各地方に依りて習慣を異にするを以て全國劃一に此れを定むる事を得ず地方費規則には其の大体を規定し地方官をして各地の習慣を參酌して適當なる稅目及び稅率を定めしめ徵收方法と共に度支部內部兩大臣の認可を經て實施せしむる事となるべしと云ふ

●憲兵將校移動

京城憲兵本部附瀧大尉は弘前憲兵隊長心得に大邱憲兵分隊長大原大尉は宇都宮憲兵隊長心得に金州憲兵分遣所長小澤大尉は大邱憲兵分隊長に本部附三浦中尉は金州憲兵分遣所長に鐵原憲兵分遣所長太田大尉は本部に轉任し夫々移動ありたり

●赤十字社總會彙報

▲皇后御名代 卅一日午後一時開催の赤十字社總會には皇后御名代として完興君殿下臨場せらるゝ由

▲御下賜金 今回の總會には皇后の令旨ある趣は既報の如くなるが社業奬勵の爲め御下賜金ある由

▲總會と餘興 總會式了りて直ちに救護演習を施行する筈なるが演習は醫員看護婦の應急手當及假病院收容負傷者看護の實況を觀覽に供したる後爆竹を合圖に模擬店餘興を開始する手筈にして餘興は明月館韓妓劇春香歌を演じ他の舞臺に於ては花月（巴の錦）淸華亭（黑木屋）井門（戾り橋）連の手踊りある由尙ほ掬翠連及龍山よりは粹を拔きたる藝妓連を派遣し模擬店等を手傳ふ筈なりと

●在韓日本人商業會議所聯合會議決案

在韓日本人商業會議所聯合會は本月廿六日を以て開會一昨廿九日を以て議事の終了を告げたるが其議決事項は左の如し

第七次聯合會決議案

特別案

○勤儉力行御詔勅奉體の件

第壹號（鎭南浦、木浦提出）

○韓國農事改良に關し其筋へ建議の件

一各郡衙に勸業課を特設し專ら農政を司らしむること

二各樞要の地に農事試驗場を設置し農事改良に關する模範を示すこと

三各郡に數ケ所の農具供給所を置き耕耘上收穫上に必用なる器具の普及を計ること就中選種除草稻扱法の改良の理由を記すること

第二號（仁川、木浦提出）

○本邦主要米穀取引所に對し其受渡し代用米中に韓國米を採用せしむる件に付其筋へ請願し併て各關係商業團体に交涉する事

第三號（京城、鎭南浦、群山、平壤提出）

○日本人商業會議所に關する法規發布を其筋へ請願及建議の件

第四號（仁川提出）

○產業組合及び同業組合に關する法規の發布を其筋に請願の件

第五號（仁川、大邱提出）

○韓國鐵道荷客短距離賃錢低減を統監府へ請願の件

第六號（大邱提出）

○關稅に關する證明手數料低減を其筋へ請願の件

第七號（仁川提出）

○韓國政府內に日韓人聯合より成る港灣調查會を組織せられんことを其筋へ請願するの件

第八號（京城提出）

○滿韓聯絡船設方を其筋へ建議の件

第九號（委員會提出）

○韓國中央銀行設立に付其筋へ請願の件

第十號

○暴徒鎭壓に關し軍隊に感謝の意を表すること

第十一號

○暴徒殘類の狀況を其筋へ陳情すること

第六次聯合會に於ける左記決議の實行を其筋へ促すの件

一 輸出稅全廢の件

二 滿韓聯絡鐵道速成の件

三 各港に於ける稅關鑑定價格の均衡を保たしむるの件

四 度量衡法勵行に關し意見開申の件

五 勸業拓殖に關する金融機關急設に付其筋へ建議の件

六 在韓邦人中暴徒被害者に對し賠償方建議の件

●聯合會の閉會式

別項記載の如く在韓日本人商業會議所第七次聯合會は一昨廿九日を以て議事の終了を告げたるにより同日午後五時會場たる京城日本人商業會議所に於て擧行せり今其概況を記さんに先づ會頭中村再造氏は閉會の辭を述べ次に副會頭森常吉氏及釜山委員追間房太郞氏の挨拶あり夫より各地出席委員の慰勞會を花月樓に開き席上中村氏の挨拶森氏の答辭戶叶京商書記長の演說等あり頗る盛會なりき

●仁川赤十字新加入者

過日仁川俱樂部に於て催せる日本赤十字社仁川支部委員總會の決議に基き理事廳及び民團役所の兩手にて社員の募集に從事せるは既報の如くなるが其後前者の手にて今日まで新に募集し得たる數は五百十名又た後者の手にて募集し得たる數は六十名にして舊社員を合せば優に四百名を算すべし

●江華島の暴徒

江華島は昨年軍隊解散の當時暴徒蜂起して一時猖獗を極めしも討伐隊のために掃討せられ少數の賊徒が時々出沒するに過ぎざりしに本月廿四日以來約百名の暴徒起り銃器を携帶して各地を徘徊し或は財物を强奪し又は家屋に放火し官衙を襲擊すと揚言して其の勢侮る可らざるものあり當局者は此れが勦討に苦心しつゝありと因みに同島の暴徒は同郡守が人民に斷髮を令したるに原因すとの說あるも同郡守は曾て斷髮令を發したる事なくして今回の暴徒は昨年の殘黨が討伐警備の稍々緩なるの機に乘じて蜂起したるものゝ如しと

●人蔘根病腐に就て

開城地方に於ける人蔘根腐病は其の被害激しきが故に當局者は之が驅除方に付き熱心盡力中にて過般も日本農商務省農事試驗場上田技師の出張を乞ひ同技師は目下開城に在りて種々調查に從事せり同技師は本月廿六日開城に於て耕作者五十餘名及び官民多衆を會し蔘病に關し一場の演說を爲したり蔘政課にては同技師の意見に基き同病豫防に關し耕作者に指示し其の實行を計ることゝせり該演說並に指示の要領は左の如し

開城地方は世界中精良の人蔘を產出する地なるに拘らず近年著しく其の收穫を減少したるは衆人の等しく認むる所にして其主として病害の蔓延に基くものにして病害中赤腐ブラクンビエングの流行に因て六七年間の心勞も水泡に歸するに至りしなり其の輕病なるものと雖も紅蔘製造に使用するを得ず實に慨嘆の至りに堪へざるが故に其の原因並に豫防方法に就て單簡に演述せんとす

抑も人蔘の病害は人類の流行病なるチブスコレラ赤痢に同じく一種の病毒の傳染に因りて生ずるものにして其の形狀は棍棒狀にして此のもの速に繁殖して人蔘より養分を吸收する恰も人蔘が土壤より養分を吸收して生長すると同一なるものなり病毒なるものは其の繁殖は迅速なるものにして一個が一晝夜にして能く數萬個に增殖すること明白なるものなり今該バクテリヤは肉眼にて見る能はざるものなれども（千倍の顯微鏡にて表示す）一晝夜を經過すれば肉眼にて認め得べき集團となるなり此の同一なる形体を具備する者は數萬となく繁殖したるものなり此の如く繁殖速かなる者は人蔘体に進入して其の組織を浸して枯死せしむることコレラ菌が人体內に於て繁殖し人類をして斃死せしむると同一なり唯人類に寄生する所のバクテリヤは植物体の如き酸性にして冷氣なる者に於ては能く繁殖せず又人蔘の如き植物に寄生する者は我人体に寄生して病を惹起することなきが故に人類には無害なるも貴重なる物品を喰害するが故に損害夥多にして盜賊が物品を持去ると同一なるものなり唯人毎に肉眼にて見ること能はざるものなれば億萬の小盜人が人蔘を奪去するものと云ふ可し故に我々は此の小盜人を征伐するために種々の方法を講究するものにして其の小盜人卽ちバクテリヤは第一に日光に對して弱きものにして乾燥せしむることは甚だ苦痛を感じ終には死滅に歸するに至る故に此植付前には圃地の土壤を反耕し又は薄く廣げて盛夏の時に數日間乾燥せしむるを要す（未完）

●沿岸航補助請願

昨日仁川に渡來したる木浦某實業家の語る所によれば同地の沿岸航海業者竹內某は全羅南北兩道の沿岸島嶼を四線に分ち木浦を起點として定期汽船航路を開始する計畫にて每年三萬圓の補助金下附を其筋に請願したりと

●仁川病院委員會

過日仁川第二回民會に提出されたる第七十號議案仁川民團立仁川病院規則改正の件の委員附託となれるは既報の如くなるが一昨日午後二時より顧原、加來、桑野、慶田、田中の七氏出席の上右問題に就き第一回委員會を催せしも議論百出遂に採決を見るに至らずして散會せり尙ほ其第二回委員會を來る五日頃開催し意見を決定する筈

●民團會計檢查終了

京城居留民團の會計檢查は昨日全部終了せり

●尼ケ崎滊船の增船

尼ケ崎滊船會社の大阪仁川間定期航路船は夏季穀物輸出閑散となりたる以來神代丸大有丸の二隻を以て航行せしめ居たるが目下仁川の出穀期も切迫し居り又本年は地方豐作の結果出廻りも夥多なるべきを以て仁川會社代理店にては數日前本社に向け增船方を照會したる由なるが多分君ケ代丸か或は太湖丸の內一隻を廻航することになるべしと云ふ

●城津光州間電話

城津、光州兩郵便局間にては來月一日より既設警備電話を使用し公衆電話を取扱ふ筈なり

●外國滊船入港

外國滊船バウマス號はリバープールにて歐米雜貨若干を積載して一昨日仁川に入港したり因に同船はホームリンガ商會の扱ひなりと

●度支部官吏の宴會

度支部官吏は一昨日今般歸朝すべき岡田財源調查局技師の送別及び日本より出張せる大藏省專賣局技師奧健藏農商務省農事試驗場技師上田榮次郞の兩氏並に今回着任の司稅局參政課長上林書記官財源調查局技師荒井憲治氏の歡迎會を淸華亭に開催し出席者六十餘名ありて盛會なりき

●仁商議所月報發刊

仁川商業會議所の月報發刊は九月二十九日の總會に於て贊同を得たる處なるが此程其の內容及び契約書等確定するに至りたれば之に因て異存なきや否やを訊ふ可く回文を以て役員會議を開けり

●赤十字總會に寄贈

キリンビール二箱爆竹一組を辻屋より赤十字總會に寄贈せり

●岩井警視の歸任

北韓地方視察中なりし岩井內部警視は昨朝歸任せり

●足立十八支店長

昨朝仁川十八銀支店に着したる足立氏の書翰によれば同氏は昨夜釜山發の急行列車にて歸仁すべしとありたれば多分本日仁川に着すべしと

●仁川の居留民數

十月中仁川民團役所に於て受理したる居留屆は三百三件、退居屆は十五件、轉居屆は六十五件にして斯く近來に稀なる多數の居留屆を見たるは云ふ迄もなく統監府令第四十五號居留規則發布の結果なり

公人私人

▲松平乘承氏（日本赤十字社理事子爵）二十九日入京巴城館

▲吉池慶太郞氏（日本赤十字社主事）同上

▲川畑宗次郞氏（陸軍步兵少佐）同上

▲中桐宰太郞氏（統監府技師）二十九日大邱に向ふ

▲田中讓氏（東京石川島造船所技師）二十九日新安州に向ふ

▲堀江覺治氏（代議士）二十九日平壤に向ふ

▲井上宜文氏（工業家）歸朝中の所二十九日歸京

●近事片々

▲桂首相 相合衆國通信社特派員に語りたる所は早く米國に打電せられて大に感激さる

▲其說 に曰く日本過剩の人口は之を韓國に移殖して米國には渡航せしめざるべしと

▲日本 は堅く淸國の領土保全を尊重して決して何等の野心なしと圓滑なる申分なり

▲過剩 の人口を韓國に移殖する云々と云いて何ぞ一步を進めて滿州にもと云はざる

▲全く 米國や布哇に移住民を送るは移民に非ずして棄民なりとの說は既に唱へし所

▲帝國 の大陸經營よりすれば日本の人間は一人たりとも大切なり棄民にするは不可

▲南米 や北米や加奈陀や布哇に行く移民は少許の貯金を年々送るに過ぎず只夫れ耳

▲大陸 發展に關する韓滿の移民は直に帝國の進展を意味す之に全力を傾注する可也

▲一人 移植は夫れ丈の發展を意味す米國や布哇の移民は帝國發展には何等の効なし

▲南滿 鐵道や西比利亞鐵道は大和民族發展の公道たる觀念は常に抱持すること肝要

▲遠隔 の米國迄移民を送るは勞銀を得るに留る國家の上より見れば甚だつまらぬ也

▲一葦 帶水の滿韓に幾多開拓の餘裕綽々として存す何を苦で遠く開拓の勞を取らん

▲一人 にても多く滿韓に移植する方法を講せざる可らず米國移民の如き不經濟の極

▲帝國 人口多しと雖も大切なる人間を不經濟にも遠隔の地に移殖せしむる必要なし

▲韓國 は無論淸國の北方は帝國々民の移住によりて始て眞正の開拓を爲し得べき也

▲韓內 閣更迭の說亦盛に行はる完用內閣の民望を失ふや既に久し此際更迭は甚可也

▲材略 手腕は劣るとも國民に信望ある人材を以て新內閣を組織せしむるは今日の急務

▲完用 秉畯兩氏の如き材幹あるものよりも此際は着實にして溫厚なるを可とする也

▲統監 指揮の下に働く事なれば殊に才子內閣を不要能く服從して勵精するが專一也

▲進步 黨の內輪揉めも久しきもの終に嵩じて大隈伯の調停を要するに至れるは哀れ

▲進步 黨の欠點は議論多くして實行少きにあり犬養の智も大石の雄も更に甲斐なし

▲米國 大統領撰擧ブライアン氏に勞働黨加擔し形勢稍々變ずるの徵ありとは眞乎

▲之が 爲にルーズベルト氏非常に憂慮し大に夕氏の聲援に勉めつゝありと結果如何

無情の夫(三)

サナもツチは頼りに思ひし母親が國元へ歸りし間もなく又々兄が家をば放逐されてよりは誰にか胸の苦痛を訴ふべき明け暮れいとし可愛の水兒を抱ひては頼りなき身の今際の境遇やら越方のことなど思ひ煩ひ時には生きて此の苦に逢ふよりは親子諸共いつそ一思ひにとの無分別な心を起せしこともありしかど頑是なき子供の顔を見てはいつも諦め果ては憐の子を許と許りに抱き締めて「アヽ此の子の母さんが[illegible]して呉れタトへ私しの身は何うならうともソナタを捨てゝ何處に行かうぞ……」と愛に沈み愛にひかさるゝツチの身の上ぞいみじくも又哀れとも云ふべし

斯かる程にツチは長らくの間の心配と苦痛とか原因となりてか本年の三月頃より激烈なるヒステリーに罹り病ひの床に臥せしが無情にも二郎は碌々手當も施さゞるのみか三度々々の粥すら炊いてやらず不相變道樂三昧に身を持ち崩し土臺妻子のことなどは一向に振り向きもせざるよりツチの病氣は日に〳〵重なり行き今は肉削け骨高く見るもいた〳〵しき姿とはなりつるが唯可憐なるは母と共に臥戸に寢ね居る嬰兒のしきりに乳房に縋りて乳を求めつれど元より連日一回の食事はおろか滋養物さへ口にせざる母体のナドて一滴の乳さへあらう筈はなく果ては嬰兒は聲を限りに泣き叫ぶ毎にツチは腸をチギらるゝ思ひ苦しき床をやう〳〵に離れて棚の片栗を溶かし嬰兒に與へ自分も何分を咽に通して一時の飢を凌ぎ居りしも元より斯かることの何時までもつゞくべくもあらず母子の身体は彌が上にも衰弱し遂には瀕死の境に陥りたるより近所のものも氣の毒に思ひ日頃より懇意の離れ彼れの女房連が交る〳〵ツチの枕邊に來りて看護の勞を盡し嬰兒にはミルクを與へて飢餓を滿たしやるなど親身も及ばぬ心切にツチは嬉し涙に咽び「皆さんに對しても早く元の達者な身体にならずば申し譯けなし」など見舞に來る人毎にいひつゝ居る中にも病氣は氣からとやらの譬へ通り其の中ツチの病氣はメキ〳〵と快方に赴き瞬く間にスッパリと元の身体に歸りけるがさるにても夫の仕業は少しも改まらず心の煩悶は以前に倍し寧ろ病の身の苦痛よりも切なかりしか運命を天に任かせし貞淑のツチはタトヒ身は悲みと憂へと嘆きの犠牲となりて悶へ死なんとも如何なる方法かを以て夫をば墮落の淵より救ひ上げばやと決心し今は夫の手荒らき仕打にも屈せず手を替へ品を替へて強意見を爲すに至りしかどイッカナ夫は毫だにも聞き入れずます〳〵ツチを虐待せるよりツチはホト〳〵困じ果て却つて這はなまじい意見などをせず事の成行に任かすがよからめと其の後は一言も口に出さず只管夫の爲すがまゝに任せ置きしが軈て夫は有らうことが有るまいことか或る日嫁てより馴染み居りし女をば吾が家にとは引き入れにき

詐僞か故意か

西部阿峴住林晋煥は龍山居住の材木商朴春浩との間に曾て木材賣買の契約を締結し過日其代價に當つべく林より約束手形四枚二千六百五十圓を記入して朴に渡したるに其後朴は之を紛失したる旨當時發行の大韓毎日申報に同手形の無効なることを廣告し置きたるに關らずも同手形を所持せる日本人本月二十七八の兩日に[illegible]林方に來り[illegible]して其支拂ひを強制したるも林は朴が紛失して無効の旨廣告したることなれば之を支拂ふの義務なきを以て之れに取合はず拒絶したれば右の日本人は手持無沙汰にて去りたるも此後如何なる手段を用ひんも計られずと此程旭町二丁目辯護士大崎熊之亟氏代人松本徳次郎より西部警察署へ訴へ出でたれば同署にては目下嚴探中なりと

酌婦の轉輾

岐阜縣惠那郡阿木村百卅二番地櫻井小七(三八)といふは日露戰爭當時南滿州撫順炭坑に人夫として雇はれ居る中同地東洋ホテルの女中東雪江(三三)といふ女とチョックラあじな仲となつたが原因となり末は夫婦の約束を爲し二人手に手を取り曉の七ッの鐘を相圖に雪江は東洋ホテルを拔け出し男と共に旅順に驅け落ちせしとが天道樣は有らうが米の飯に有りつかれず已むなく女は前尻の安賣りと出掛け稼ぎ居る中何うも思はしく繁昌せざるより昨年九月頃仁川に渡り又々同地で淫賣を爲せしも此の女何ういふ都合か客取りが下手にてサッパリ買つて呉れる男がなくホト〳〵困せしが所變れば男も變るだらうと今度は京城に河岸を替へ本月十五日頃旭町一丁目久田屋といふ料理屋に酌借八十圓にて酌婦奉公に住み込み碎身粉骨れ客取り怠りなかりし中其の家の主人といふが非常の強慾者にて雪枝をばタッタ七圓の差ひ八十七圓にて初音町の日鮮亭にオツ賣めしが又同亭の親爺といふが擧鬼どを混せぐり返へしたやうな人物にて又々雪江をば南大門外日本亭に賣り飛ばせしを雪江の情夫櫻井が聞きつけて眼を丸くし早速日本亭に赴き五十圓を現金でやるから三十圓は證文とし女を渡し呉るゝやうと頼み入りたるも主人はナカ〳〵聞き入れざるのみか手前が何うしてもといふのなら警察沙汰にして其の上で女を渡してやらうといふより櫻井は女を連れて主人と共に警察署へ行く途中櫻井は女と二人で何時の間にか逃亡し何れへか姿を隱したるより主人は吃驚仰天し其の旨警察へ訴へ出でし所警察にては此程兩人を永登浦にて捕へたりといふ

商店覗き

▲丁子屋▼

韓國に於ける洋織物羅紗商の覇王也二層建の巨家儼然として群小商賈を睥睨するの概あり主人は小林源六氏三重の產當地に支店を設けしは明治三十七年三月爾來本年に至る迄滿四年の間上は韓國宮內府を始め各官衙の用達を[illegible]て今日の盛大を見るに至れり本支店の從業者三百餘名以て其の商勢の尋常一樣にあらざるを知るに足るべし今試みに主人小林氏が座右の銘といふを聞くに「如何なる事業と雖も根底なき所謂射幸的事業は決して志す勿れ誤つて僥倖を得ることあるも斯かる財は決して持續すべきものに非ずのみならず一世の方針を誤らしめ他日身を損ひ家を破るの毒及を化することあるべし」と常に後進子弟を誡めて渝ることなしと云ふ場所は南大門通四丁目なり

▲伊藤組▼

商店にはあらざるも營業上商店の性質と毫も異るなし營業種目は人力車業引越飛脚宴會の設備及び人夫請負等なるが就中人力車業を以て其の重なるものとす場所は本町三丁目の四辻「統監府御用」の美々しき看版は一見行人をして眼を欹だたしめ際に「統監閣下御用車」及び「長谷川軍司令官閣下御用車」の二看版は見るものをしてマッ度膽を拔かしむ店前人力車の出入常に絶ふ事なく且つ荒れくれ男の景氣好きは誰が眼にも何となく營業振りの偉大なるを想はしむ主人姓は伊藤名は友松勝の緒切つて三十八年意地を張りなら後へは退かぬといふ持つて生れた江戶ッ兒氣性異に之れ義氣に富み然諾を重んずる男の中の男一匹といふべし若し夫れ夜間警鐘鳴り響き紅焔天を燒いて炎々其の威を逞ふせんか昨の人力車夫は忽ちにして是れ一個勇壯活潑なる消防夫と變じ主人友松氏を先頭にポンプの鑾バレンの音も勇ましく命を的に盡力するありさまは又却々に目醒しきものなり今は貸家を諸所に有し資產又豐かなりと云ふ

宿料踏倒しの駄賃

山口縣羽吹郡富來村平民小馬亮三(二七)は本年七月初旬より南大門通一丁目櫻井旅館事植村善次郎方へ投宿し別段就業口を求むる由もなく日々ノラリクラリと遊びつゝありたるが八月半頃に至り宿料百三十五圓を踏み倒し其行掛けの駄賃に同館二階四疊半の室に宿せし客人の金縁眼鏡一個を窃取し何處にか姿を隱したる儘行衛知れざりしが本月廿五日前記窃取したる金縁眼鏡を米倉町の質商千葉屋事武田不二郎方へ十三圓に入質し南大門外吉野町一丁目志村某方へ潛伏し居たるを西部警察署の大塚刑事の探知する所となり一昨日午後七時半志村某方に踏み込み難なく之を取押へ亮三は昨日檢事局へ送られたり

無錢の醉人

旭町一丁目七番戶大山鶴松方伊本尚藏(三十)は一昨日午後十時長谷川町二丁目飲食店上田外次郎方にて一圓四十錢丈飲食せしが錢一つだに所有し居らざる廉より其筋に引致さる

死んだ人と思つたら人

南大門外鐵道官舍八號吉崎善吉は腸窒扶斯病に罹り大韓醫院にて治療中なりしが一昨日死去す龍山元町二丁目三十七番戸和田ヒサヱ及び龍山櫻町九十九番戸小磯彌太郎の兩人は二十六日龍山漢江通り四丁目三十六番戸太田源太郎(三九)は二十九日何れも腸窒扶斯に罹り青坡病院に送らる

京城の初氷

去る二十五日[illegible]氣壓通過後は高氣壓滿洲地方に擴張し北風強く既に內陸地方は氷點下數度に降りぬ當地に於ても廿八日は前日に比し平均氣溫六度八の下降を呈し漸次寒氣增進して昨朝未明は氣溫零度に達し薄氷を結へり之れ本年の初氷にして昨年に比し五日早し殊に兩三日は結霜も甚しければ果樹等に注意すべき時なり

南山本願寺說教

今日は土曜日に付午後七時半より說教あり

龍山本願寺の說教

龍山本願寺にては本日午後七時より伊藤開教使の說教あり

同可娛欄(廿一)

狂歌(本紙廣告讀込)　志雲

齊々園茶舗
お茶は宇治茶碗は淸水品がよくてせい〳〵

池田病院
勉強店は繁昌
幼子が二ツ一ツの命をばさじの加減でいけた病院

平山牛乳
平山のちゝは添ひねのはゝよりもふびんの乳子を救ふ親王

日の丸魚市場
日の丸の旗で得意をなびかしてかけねも言はずごまかしもせず

(平)(民)(文)(庫)

▲一昨晩壽座に女芝居を見物しましたが中々うまい事(玉突屋の小僧)▲近頃本町○丁目の靴屋の娘さん一向見ねぬが行先き御存知の方は一報あれ報酬進上(思案の友)▲君はよく其の事を尋ねるが抑も何用あつての御骨折り一寸伺ひますよ(小僧)▲いゝいゝいゝいゝ渡し舟呼べど返さぬ情なさ哉此れは小生の作なるが若しこれを其角先生が歌つたとすれば今世に於て大に歡迎さるゝ筈ならんに嗚呼今人の無能現に知られたり(係り生)▲天長節には何處で觀兵式はありますか(永樂町の住人田吾作)▲龍山練兵場にて擧行されます(係り)▲赤星さん昔郎此校遊びに來て下さらなくつて(スルメ孃)▲小生にては如何なものに候や(小僧の次き)▲私しは二上りだとか三下りだとか都々逸などを習ひたいと思つてゐるんですが師匠さんは誰れがよいの(星子孃の小分)▲昨今の寒さはどうちやうかい(流球の女)▲タイヘン寒いあります(支那人)

天氣豫報(自三十日午後六時 至卅一日午後六時)

西の風曇り後晴

三十日午前六時谷地氣象概況　今朝滿韓は一帶に高氣壓にて占有せられ沿海地方は北の風吹き東海岸は曇天其他は晴朗にして氣溫は昨朝に比し大に下降せり

落語 一ッ穴 (十三)

権「それ見た事か云はねへ事ちやア無へれ内儀さんだつて家へ歸つて話しい爲たら宜かんべい權那那へ怪我ア爲たら何う爲るんだい」ア持被成へ短氣は損氣狸の睾丸八畳敷だ……

牛「ヤイ權助汝何爲に此處へ來やアがつた

権「サア失策つた出る處ちやアなかつた

牛「おやア何んだな跡を汝が尾て來やアがつたんだなイーヤ謬したつて不可ねへ田舎者はだから乃公ア嫌へだ狗奴……畜生……

権「お内儀さんヤ泣ねへが好い少し待ちなぜひ跡で話しは濟むべい……濟ねへのは乃公が方だ奥州ナヨックラ此處へ出ろ

牛「主人を捕へて出ろとは何んだ汝出ろ

権「乃公ア出ねへ吾れ出ろ…乃公アハア和郎等の處で給金貰つてるから米炊だ權助だけんど國へ歸つて見ろ乃公ア親爺サ權左衛門と云ふ名主どんを八右衛門どんと云つて名主から三枚目にもすわる家からだ其天下の御百姓だ御百姓を捕へて犬とは何んだ畜生とは何んだ何時椀の中へ面ア突込んで飯を食た

牛「何を云やアがるんだへ何も椀の中へ面ア突込んで飯を食ふ計りが狗ちやア無へや郷方ィ往つちや好いやうな事を云ひ此方へ往ちやア好いやうな事を云ふから狗と云ふんだ

権「うれちやよつてたかつて畜生にするれ面さんは狗だと云ひれ内儀さんは一ッ穴の狐だと云つた(終)

●新聞料 ▲一ヶ月金二十錢▲三ヶ月前金川五錢▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲廣告五號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番